

# 詩、踊る

CULTURE CITY OF EAST ASIA 2020 KITAKYUSHU "shi odoru"

通信 vol.3

「詩、踊る」2組目は平出隆『雷滴 その放下』をソロで踊る鈴木ユキオ『HÔKA』だ。小説の執筆など領域を越えて活躍する平出と、室伏鴻に舞踏を学びコンテンポラリーダンスの登竜門トヨタコレオグラフィーアワードを受賞して世界的に活躍する鈴木。自由で強靭な詩と身体が、雷光のように交錯する!

文:乗越たかお(作家・舞踊評論家) Norikoshi Takao

## 詩:平出 隆 × 振付・出演:鈴木ユキオ 『HÔKA』 強靭な詩と身体の閃光が、いつまでも胸に残り続ける

—この詩は、いましも雷が落ちる一瞬前の鮮明なイメージが連続していますね。どう取り組みますか。

まずは「蛤蠣(かつゆ。ナメクジのこと)」「ウテルス(子宮)」など、知らない言葉を調べることから始めました(笑)。何度も読むうち言葉がリズムとして身体に入ってきて、いまではダンスの世界と平出さんの詩句の世界を往還できるようになってきています。もちろん作者の意図と僕を感じたことにはズレがあるでしょう。でも大切なのは「詩が僕の身体に入った結果、何が生まれるか」なので、僕にとっての『雷滴 その放下』の世界を提示したい。それくらい、振り切っていきたいですね。

—今回はソロダンスですが、詩の中には僕・妻・女庭師などの登場人物が出てきます。

平出さんとお話したとき「アーティストとしての厳しさ」がとても強く伝わってきたんです。だから、僕も自分の身体ひとつでこの作品に立ち向かいたいと思いました。中劇場は結構大きいですが、僕は空間に余白がある方が気持ちよく踊れるので、ソロでも全く問題ありません。

『雷滴』では「黄金の華奢な太腿」など女庭師の繊細でセクシャルな表現や、奥さんの話

▶がスッと入ってきたりしますよね。すごく私的な部分と外の情景が共存している。そして最後には手摺りと手が触れるか触れないか、みたいな究極の肌感覚に全てが凝縮されていく。そういう感覚も伝えていきたいですね。こう見えて僕は華奢なので、女庭師も大丈夫ですよ(笑)。

—鈴木さんのダンスは身体の中に様々なベクトルの力を宿しひりぎりで立つ強さが魅力ですが、この詩の世界観との呼応が本当に楽しみですね。作品中、言葉は扱いますか。

ダンスで言葉を使うのは簡単ですが、じつは難しい。「わかったような気分」がダイレクトに来てしまい、観る側の感情や思考がそこで止まってしまうからです。そのため基本的に今日は使いません。ただ断片にした言葉の音声データを加工し、詩句ではなく「響き」として何かを加えるかもしれません。

—全体の構成はどのように考えますか?

じつは『雷滴』は「2行の詩・1行空き・1行の詩」を組み合わせるというルールで書かれているんです。そこで僕も、各シーンにひとつルールを設定して踊ろうと思っています。詩と

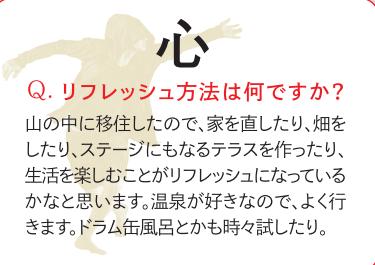
▶ダンスが、内容と形式の両面で関連したら面白いかなと。

そしてこの「形式」は、最近の僕の課題でもあるんです。他のダンサーに振り付けるとき、自分のソロで感覚的にやってきたことを言語化・形式化して伝える必要があります。そのおかげで自分自身の理解が深まっていている実感があるんですよね。とくにコロナの自粛期間中は自分の内側を探る時間がたっぷりありました。

そしていまでは「わからないことをわからないまま精密にコントロールし、他人と共有すること」も大切だと思うようになりました。自分にとって詩とは、まさにそういう存在なんです。わからなくても、身体の中に残り続けていく。そしてあるときパッと像を結び情景が浮かんだりする。じつはダンスも、「各シーンはよくわからないが、全体を見終わったとき、なにかが胸に残る」ことが大切なので、単に詩を動きに置き換えてもしょうがない。ダンスを観た人が原作の詩を手に取りたくなる、「言葉とは何か」ともう一度考えたくなる……そういう力のある舞台にしたいですね。

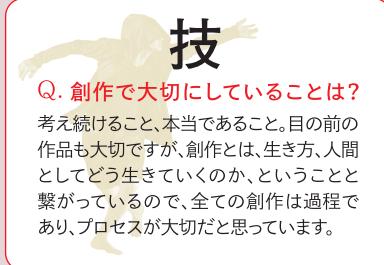
東アジア文化都市2020北九州「詩、踊る」  
11月7日(土)15:00開演  
北九州芸術劇場 中劇場

極限まで研ぎ澄まされた踊り手の身体はどのようにつくられるのか?心技体の秘密に迫る!



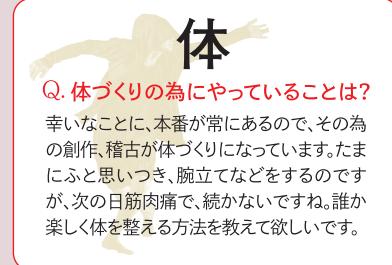
Q. リフレッシュ方法は何ですか?

山の中に移住したので、家を直したり、畑をしたり、ステージにもなるテラスを作ったり、生活を楽しむことがリフレッシュになっているかなと思います。温泉が好きなので、よく行きます。ドラム缶風呂とかも時々試したり。



Q. 創作で大切にしていることは?

考え方のこと、本当であること。目の前の作品も大切ですが、創作とは、生き方、人間としてどう生きていくのか、ということを繋がっているので、全ての創作は過程であり、プロセスが大切だと思っています。



Q. 体づくりの為にやっていることは?

幸いなことに、本番が常にありますので、その為の創作、稽古が体づくりになっています。またふと思いつき、腕立てなどをしますが、次の日筋肉痛で、続かないんですね。誰か楽しく体を整える方法を教えて欲しいです。

● 次回は  
浅井信好さん  
インタビューを  
お届けします